

2010 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2010 年度秋季大会は、10 月 27 日 (水)～10 月 29 日 (金) に広島国際会議場において開催し、782 名 (会員 653 名, 非会員等 129 名) の参加がありました。地方開催ということもあり、参加者は昨年 of 京都大会 (参加者数 879 名) と比較してやや減となりました。口頭 280 件, ポスター 238 件の合計 518 件の発表がありました。今年度も講演申し込みと予稿原稿のアップロードの全てをウェブサイト上で行う方法としました。ウェブサイトでの投稿は ASC と共催であった 2008 年から数えて 3 年目になります。ウェブを通じた投稿がかなり浸透し、ほとんどの講演を無事に受け付けることができました。昨年度と比較しても、投稿ミスが格段に減少したように思います。このため、プログラム編成作業をととも順調に行うことができました。この場を借りてお礼申し上げます。

昨年同様、口頭発表会場は 4 会場、口頭発表の時間は質疑応答も含め 15 分としました。若手学術奨励賞受賞者による記念講演は大会初日に実施するとともに、今大会では 4 件の特別セッションが企画され、活発な議論がなされました。昨年の大会では、2009 年 8 月 11 日に発生した駿河湾の地震、2009 年 9 月に海外で発生した地震の緊急セッションが企画されましたが、今年度は大地震が発生しなかったこともあり、緊急セッションは開催されませんでした。

本年度より日本地震学会では、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表、ポスター発表、どちらも対象です。審査員は代議員と大会・企画委員会から 23 名が選出され、学生会員登録をしているのべ 93 名の発表を審査しました。初の試みということで手探り状態でしたが、無事に審査を終えることができ、関係者一同、安堵しています。受賞者は本ニュースレターにて発表されています。

また、近年の地震学会の会計は非常に厳しい状況

となっており、今年度の秋季大会の赤字分は繰越金から補填しています。しかし、こうした状況が続くと 4～5 年後には、繰越金がなくなり、地震学会の運営そのものが困難になる危険性があります。理事会においても秋季大会での参加費・投稿費徴収の可能性についての議論がなされていることから、今回、大会参加費・投稿費徴収およびその方法に関する会員の皆様の意見・要望を調査することを目的としたアンケートを実施させていただきました。392 名 (約半数) という多くの方にアンケートにお答えいただきました。アンケート結果につきましては、このあとの報告をご覧ください。

秋季大会の準備、運営面では、広島大学の LOC に全面的にお世話になりました。広島大学の地震学会員は少なく、実質的な LOC メンバーは須田さんと中久喜さんのお二人でした。広島大会の円滑な運営はまさに LOC のご尽力によるものであり、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。また、昨年の京都大会に引き続き、LOC 業務の一部を外注して運営したことも広島大会を成功させたひとつの要因です。LOC 業務の外注には経費がかかりますが、広島大会の成功によって皆様の理解が得られるものと信じています。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様、ご協力ありがとうございました。

大会参加費・投稿費徴収に関するアンケート 結果報告 (大会・企画委員会)

学会の厳しい財政状況を受け、今大会では、大会参加費・投稿費徴収およびその方法に関する会員の皆様の意見・要望を調査することを目的としたアンケートを実施させていただきました。大会受付で用紙を配布、各会場の出入り口及び受付に置いたボックスで回収を行った結果、大会参加者 782 名に対して回答 392 件と、約半数 (50.1%) の方からご回答を得ることができました。皆様、お忙しい中のご協

力、まことにありがとうございました。アンケートの結果につきましては、今後、理事会および大会・企画委員会における議論の際の参考にさせていただきます。

アンケート集計結果の概要

※ 四捨五入のため割合の合計が100%になっていないものがあります。

※ Q4・Q5に「その他・無回答」が多いのは、アンケート裏面未記入の方が多かったためです。

Q1. あなたは地震学会の会員ですか？

会員	90%
非会員	9%
無回答	2%

Q2. あなたの所属について、当てはまるものを選んでください。

大学（教員・ポスドク）	31%
国立研究機関・独立行政法人	24%
大学（学生・院生）	22%
民間企業・民間研究機関	19%
その他・無回答	4%

Q3. 大会開催費用の負担はどのような形が良いと思いますか？

参加費として徴収	47%
参加費・投稿費両方を徴収	29%
年会費〔現状9000円〕を増額	9%
投稿費として徴収	8%
負担を増やすべきではない	5%
その他・無回答	3%

Q4. 大会参加費・投稿費の合計額（予稿集代は除く）がどのくらいであれば許容できますか？

2000円程度	32%
4000円程度	29%
6000円程度	15%
徴収は許容できない	4%
6000円以上	1%
無回答	19%

Q5. どのような支払い方法を希望されますか？（複数回答可）

Web上でのクレジットカード決済	38%
現地現金払い	27%
郵便・銀行振込	17%
その他	1%
無回答	18%

Q6. 現在の大会運営の中で、なくてもよいと思う企画・サービス等があれば、書いてください。

Q7. 逆に、参加者の負担額が増えたとしても、新たに始めた方がよいと思う企画・サービス等があれば、書いてください。

自由記述欄

これらの質問に対しましては、さまざまなご意見を数多くいただきましたが、特に多かったご要望は、予稿集のPDF化、CD-ROM化、WEB公開でした。

LOCからの報告（LOC）

2010年度秋季大会は、非力ながら広島大学の理学研究科がLOCを務めました。総勢2名という弱小LOCの記録は、おそらく今後破られることはないでしょう。それでも何とか開催に漕ぎ着けることができたのは、ひとえに前回京都大会LOCによる詳細な引き継ぎ資料のおかげです。会場は、開催を打診された当初から広島国際会議場が念頭にありました。広島大学では交通の便が悪く、宿泊施設も足らず、分散会場になることも避けられません。交通・宿泊に便利で分散会場を避けるとなると、選択肢は広島市内の広島国際会議場しかありませんでした。会場費が高いのが難点でしたが、予算については一部の方々から問題ない旨お聞きしていたので問題にしていませんでした。しかし、後になって学会の財政状況が逼迫していることが分かり、会場構成を大幅に変更しました。予算については、まず直接の責任者と連絡を取るべきであったと反省しています。

予算の関係で会場設営が1日目早朝からであったため、受付をはじめとする各種標示の準備が遅れてしまい、早めにお越しの方にはわかりにくかったことと思います。受付業務は、事務局のプロのご指導

により、不慣れなバイトでも滞りなく務めることができました。クロークは、本来は会議場を借り切りの場合のみ使用可能なところを、特別に使わせていただくことができました。朝から夜まで対応する必要がありますので、バイト代はかかりますが、今回のような地方での開催にはやはり必要だと思いました。

ポスター会場については、前回好評だった幅120cmはそのまま、さらにポスター列間隔を4.6mと広く取りましたので、余裕を持ってご覧いただけたことと思います。ただ、天井照明の配置の関係で、ポスター列によっては暗くなっていました。当初ポスター会場はA会場とB-D会場の間の大会議室を使用する予定でしたが、予算不足のためあまり適していない会議運営事務室を使用したことが原因です。

講演会場では、前回に引き続きPCによる計時を行いました。当初は前回同様「Q-gakkai」を使用する予定でしたが、直前のチェックで使用予定のPCにおいては1分ほど長く計時されることが分かり、急遽「学会たいま〜座長の友」に変更しました。結果的には、こちらの方が画面も見やすく操作も楽でした。講演会場での最大の問題は、B-D会場におけるMacノートの接続不具合でした。これは、使用した会場備品のプロジェクタが古いタイプであったため、特定の解像度でしか映写できなかったことが原因です。また、Macをプロジェクタに直結した状態で解像度を変更する必要があったのですが、発表者がMacの操作に不慣れな場合があり、それも時間ロスを招く大きな原因でした。しかし、廊下に業者が常駐していたため、完全に立ち往生という状況は防げました。LOCとアルバイトのみでは、このようなトラブル対応は不可能でした。A会場のみは、プロジェクタ以外は業者の機材を用いて講演中も常駐してもらったため、進行はスムーズに行えたことと思います。しかし、予算の関係上プロジェクタに会場備品のやや能力不足のものを使用せざるを得なかったため、映像が暗くなってしまったのは残念でした。

一般公開セミナーは、日本地震学会主催、広島県・

広島市後援のもと、「広島周辺の被害地震—これまでとこれから」と題して、10月30日(土)午後1時から4時まで、広島YMCAホールで開催されました。広報については、朝日新聞や地元の中国新聞など、大手メディアにもご協力をいただいたのですが、事前申し込みは85名という状況でした。そのうちの何割の方に来て頂けるか危惧しましたが、当日には90名の参加者にお越しいただきました。これは、お申込を頂いた方すべてに受け付けた旨を折り返し連絡したことが大きかったように思われます。参加者は、企業・教育関係の方と一般の方が半々という割合でした。

前回に引き続き今回もLOC業務の一部を業者に外注したわけですが、予算不足で映像関係は中途半端な外注になってしまいました。前述したとおり、最も大きなトラブルはやはりそこで発生しました。業者持ち込みの機材を使用することで、今回発生した映像関係のトラブルはすべて防ぐことができます。次回は是非検討していただければと思います。そのような形で業務の一部を外注することで、3名のLOCで無理なく大会開催が可能です。その場合、仕事内容の親和性を考慮すると(1)大会・企画委担当・会場・アルバイト、(2)会計・懇親会、(3)一般公開セミナー、という分担になるでしょうか。今後のご参考にいただければ幸いです。最後になりましたが、多くの方々のご協力のお陰で、大きな混乱もなく秋季大会を終えることができました。大会に参加して下さった皆様、ご協力下さった方々に厚く御礼申し上げます。

大会プログラムの修正等(大会・企画委員会)

○発表のキャンセル

P2-19 地震波干渉法を用いた地殻構造イメージングに関するシミュレーションスタディ #辻 琢允・渡辺俊樹(名大・環境)

A21-03 S波速度異方性と応力—NanTroSEIZE319の結果— #伊藤久男・真田佳典・木下正高・319乗船研究者